

第 46 号議案

魅力ある府立高校づくり推進基本計画の策定について

京都府教育委員会基本規則第 17 条第 6 号の規定により、別紙のとおり提出します。

令和 5 年 12 月 19 日

教育長 前川 明範

提出の理由

「府立高校の在り方ビジョン」に掲げる内容のうち、今後府教育委員会が取り組む教育制度等に関する改革について、基本的な方針を示す計画を策定するため、提出するものである。

魅力ある府立高校づくり推進基本計画の策定について

1 計画の概要

(1) 計画策定の趣旨

「府立高校の在り方ビジョン」(令和4年3月策定)に掲げる学校、学科等の配置の在り方や入学者選抜制度等について、府教育委員会が取り組む改革の基本的な方針を示す。

(2) 計画期間

ビジョンの計画期間(令和4～13年度)に合わせて本計画の策定後から令和13年度までとする。ビジョンの改定等により見直しを行う。

(3) 計画内容

第1章 基本的な考え方(計画の趣旨等を記載)

第2章 今後の府立高校の在り方

第3章 今後の入学者選抜の在り方

2 計画の最終案

別添のとおり

※最終案の概要(基本方針)は【別紙1-1】のとおり

3 中間案に係るパブリックコメントの概要

(1) 意見募集期間

令和5年10月2日(月)～10月27日(金) 26日間

(2) 意見提出数

127名・288案件

(3) 意見の概要

主な意見の要旨は、【別紙1-2】のとおり

別紙1-1 基本計画(最終案)の概要(基本方針を抜粋)

第2章 今後の府立高校の在り方

1 全日制課程の魅力化と配置等の在り方

(1) 普通科・普通科系専門学科(4ページ)

【基本方針】

- 社会が大きく変化する中で、生徒の多様なニーズや希望に対応した選択肢を提供できるよう、それぞれの高校に応じた特色ある教育活動を展開するとともに、中学生や保護者が進路選択しやすいよう、各校の特色や魅力をわかりやすく情報発信する。

(特色や魅力ある教育活動の例)

- ・ 社会を牽引するリーダー人材を育成する高度な学び
- ・ 大学や研究機関等と連携・協働した学び
- ・ 基礎・基本の学び直し
- ・ 質の高いスポーツや文化・芸術活動 など
- 普通科系専門学科は、先進的な探究活動等に取り組むなど、高度で特色ある専門的な教育内容を充実させる。
- 各通学圏で既設の普通科及び普通科系専門学科を見直し、特色あるコース設定や新しい普通科の設置など、普通教育の魅力化を推進する。

(2) 職業学科及び総合学科(5、6ページ)

【基本方針】

- 職業学科及び総合学科については、地域バランスや地域の魅力を考慮して学校、学科を配置する。
- 府の産業政策や、府産業教育審議会における議論を踏まえ、大学や地域の産業界との連携など産業教育の一層の充実及び魅力化を推進する。
- 「府立高校産業教育デジタル化事業費」により充実した設備を最大限活用し、実社会に通じる実践的な産業教育を推進する。

(3) 京都府立大学との連携強化(6ページ)

【基本方針】

- 農林業系専門分野(「農」「林」「食」)の教育内容を充実させるため、中核校を府立大学附属高校とし、大学との相互連携を強化した上で、他校へその成果を波及させる。

(4) 全日制高校の配置等の在り方(8、9ページ)

【基本方針】

- 南部地域と北部地域の実情の違いを考慮しながら、学習指導と部活動や学校行事などの教育活動のバランスの良い高校教育が提供できるよう、学校の配置及び学校規模を見直す。
 - ・ 南部地域(京都市・乙訓、山城地域)
 - 1 学年6学級から8学級程度(学校全体で18学級から24学級)を望ましい学校規模とし、地域内での通学利便性や学科を含む高校の設置状況、公立中学校3年生数の将来推移などを総合的に判断して、各地域内における学校の配置及び各校の使命や特色を見直す。ただし、学校規模の一律的・機械的な平準化は行わない。

- ・ 北部地域（口丹、中丹、丹後地域）

地元地域からの入学状況等も含めて総合的に判断し、更なる小規模化により生じる教育活動の課題を解消するために、ICTの利活用を進め、各地域内における学校の配置及び各校の使命や特色を見直す。

- 学校配置の見直しにあたっては、政府統計による高校生の平均通学時間を目安として考慮する。ただし、地理的条件等を踏まえ総合的に判断する。
- 設置する課程・学科等において果たすべき使命や特色をスクール・ミッション及びスクール・ポリシーにおいて明確化する。これらは実施計画の策定などに合わせて改訂することがある。
なお、定時制課程、通信制課程についても同様に扱う。
- それぞれの府立高校の日常の活動を含めた魅力を SNS・マスメディア等を活用して広く発信し、小・中学校におけるキャリア教育の充実につなげる。
- 探究活動や地域の企業と連携したキャリア教育の企画・運営、地域人材や教育資源との連絡・調整など、府立高校と地域社会との連携・協働を担うコーディネーター体制の整備を進める。
- 特色ある府立高校に開放型地域クラブを新たに設置し、中学校部活動の地域移行においての活動拠点にするなど地域のスポーツ・文化芸術活動の推進につなげる。

2 定時制・通信制課程の魅力化と配置等の在り方（10ページ）

【基本方針】

- 京都フレックス学園構想による成果・課題を踏まえ、各地域における生徒の状況やニーズに応じて、定時制課程の配置を見直す。
その際、現在の定時制課程が果たしている役割、全日制課程との関連性等も考慮して検討する。
- 通信制課程では、通学による対面指導と ICT を活用したオンライン指導とによるハイブリッド型の学習、転・編入制度の弾力化、通信制課程での履修科目を全日制課程・定時制課程で単位修得可能とするなど他課程との連携を含めた、新しい教育システムの構築を推進する。

3 柔軟な教育システムによる魅力化

（1）新しいスタイルの全日制高校（11ページ）

【基本方針】

- 単位制による柔軟な教育課程を活かし、生徒の挑戦をサポートする新しいスタイルの全日制高校を設置する。
（想定する教育システムの例）
 - ・ 卒業までに修得する科目や単位数を選択可能とする
 - ・ 2期制により半期のみでの単位修得も可能とする
 - ・ 学習時間帯の選択を可能とする
 - ・ 異なる課程間での教科・科目等履修システムを構築する
 - ・ 通級による指導を導入する など
- 新しいスタイルの全日制高校は、京都フレックス学園構想による昼間定時制単独高校との関係性を踏まえて、地域バランスを考慮した配置を検討する。

(2) 特別支援教育の充実(12ページ)

【基本方針】

- 高校教育段階での特別支援教育を充実させるため、特別支援学校高等部の分校の併設など府立高校でのインクルーシブ教育環境を整備する。また、京都府スーパーサポートセンターや各地域の地域支援センターとの連携を強化する。
- 府立高校での通級による指導は、京都フレックス学園構想による昼間定時制単独高校における実践や成果を検証し、拡充を図る。

4 学校施設等の整備(13ページ)

【基本方針】

- 生徒が意欲をもって学びたい魅力ある教育環境とするため、新たに「府立高校魅力化推進施設・設備整備基本構想」(仮称)を策定し、学校の使命や特色に応じた施設・設備の充実や、学校、学科の配置見直しに必要な重点的な整備を進める。
- 京都産業を牽引する職業人の育成を担う職業学科設置校では、意欲や目的意識の高い生徒が切磋琢磨できるよう、より充実した教育環境にするため、寮や産業教育設備など特色ある施設等の整備を推進する。
- 校舎の大規模改修など、学校施設の長寿命化対策を進めるとともに、空調設備の整備、トイレの洋式化など、快適な教育環境づくりを計画的に推進する。

5 公私協調による高校教育の充実(13、14ページ)

【基本方針】

- 加速化する少子化への対応をはじめとする公立高校と私立高校設置者間の共通課題について、「京都府公私立高等学校協議会」において、中長期的な生徒受入対策等を協議していく。

第3章 今後の入学者選抜の在り方(15ページ)

【基本方針】

- 現行の入学者選抜における成果と課題を、京都府教育委員会及び京都市教育委員会が連携して、関係する公立中学校・高等学校の代表者と検証・整理した上で、よりよい入学者選抜制度にするための検討を進める。

なお、見直しを実施する場合には、その対象となる中学生にとって、進路選択等に一定の準備期間が必要になることに配慮し、できる限り早期に実施時期を示すこととする。

魅力ある府立高校づくり推進基本計画(仮称)【中間案】に対する意見の提出状況

項目別の主な意見の要旨 ※小学生：【小】、中学生：【中】、高校生：【高】、保護者：【保】、その他：【他】	
第1章 基本的な考え方（計画の趣旨、計画期間、計画の進め方）	
○できる限り早期に実施計画を示していただき、統廃合、再編が魅力ある新たな高校づくりにつながるよう検討を進めてほしい。【他】	
第2章 今後の府立高校の在り方	
1 全日制課程の魅力化と配置等の在り方	
(1) 普通科・普通科系専門学科	
○普通科とその他の専門学科の違いが保護者には分かりにくい。新しい普通科の領域のようにわかりやすく分類し各通学圏に配置してほしい。【保】	
○普通科高校は、普通科教育を受けたい大多数の子どもの受け皿として、特色化を推進するよりも基本的な内容を押さえてほしい。【保】	
(2) 職業学科及び総合学科	
○今後の生徒数減少に備え、キャリア教育の観点から、普通科を減らし、職業学科と総合学科の割合を高める方が効果的である。【保】	
○地域の産業を担う人材の育成を本当に図ろうとしているのかが問われる。職業教育への展望が見えるような方針を提示してほしい。【他】	
(3) 京都府立大学附属高校化	
○画期的であり、府内や全国から注目を浴びて入学希望者が増え、研究と即戦力の両方の人材育成ができることを期待する。【他】	
(4) 全日制高校の配置等の在り方	
○学校の活動を活力あるものとして維持するために、一定規模の生徒数確保が必要であることは理解する。【保】	
○いろいろな友達を作れたり、クラス替えで苦手な子とも別になれたりするので、同級生が多い方が良い。【小】	
○同じ高校で違う学舎に進学しても、双方で同じ部活動ができるようにしてほしい。【高】	
○教育の質の確保には6～8学級の規模は必要であると考え、更なる少子化が見込まれる状況の中で統廃合はやむを得ない。【他】	
○少子化に応じたクラス規模を優先するのではなく、どのような新しい高校、特色をもつ高校であるかによって適正なクラス数を決めてほしい。【他】	
○多様な生徒に対応するために、府立高校を30人学級として、よりきめ細かな指導ができるようにすべきではないか。【他】	
○南北で地理的条件や公共交通機関の運行状況も大きく異なる環境がある。自宅から通えるよう、通学時間を考慮した配置等が必要である。【他】	
○部活動、特別講座等でスポーツ芸術団体と連携し、教育活動を活性化することが、口丹以北地域では特に重要と考える。【保】	
○コーディネーター体制を整備することで、地域資源を更に活用し、魅力化・特色化が一層進むよう取り組んでほしい。【他】	

項目別の主な意見の要旨 ※小学生：【小】、中学生：【中】、高校生：【高】、保護者：【保】、その他：【他】	
2 定時制・通信制課程の魅力化と配置等の在り方	
○ 不登校経験がある生徒のため、学び直し可能な昼間定時制高校やフレックス学園構想の成果を踏まえた高校を通学範囲内に設置してほしい。【保】 ○ フレックス学園構想に基づく昼間定時制に限定せず、夜間の時間帯にも通える学校を残してほしい。【他】 ○ 全国的に夜間定時制で外国人生徒等が増加傾向である。外国人生徒等への日本語指導ができる拠点校を設け、他の学校へ支援等も行うべき。【他】 ○ 小中学校における不登校児童生徒の増加に対応するには、通信制課程の魅力化が重要と考える。【他】 ○ 定時制・通信制との共修制度等を活用し、卒業単位を柔軟に対応することで入学した全日制高校で卒業できる柔軟な制度構築が急務である。【他】	
3 柔軟な教育システムによる魅力化	
(1) 新しいスタイルの全日制高校	
○ 緩やかな教育課程と複合的な教育システムによる新しいスタイルの全日制高校は、各通学圏に1校は設置する方向で検討してほしい。【他】 ○ 通学時間帯や科目が選択できるのは、個別のニーズに合わせるという意味で、今の時代にマッチしている。【他】	
(2) 特別支援教育の充実	
○ 特別な支援が必要な子どもにとって、小・中学校のように安心して通える場を府立高校にもつくってほしい。【保】	
4 高校設置者間の協調・協議	
○ 京都の教育を支える立場で、定員を超えた過剰な生徒確保に走ることをしないよう、毎年、公私比率を確認することが必要だと思う。【他】	
5 学校施設等の整備	
○ 安心な教育環境のための耐震化の視点も含め、学校施設・設備に投資をしてほしい。【高】 ○ 安心して子どもを通学させられるよう、私学に助成するよりも、府立高校の施設・設備を見直してほしい。【保】	
第3章 今後の入学者選抜の在り方	
○ 入試制度が分かりにくいと、まわりの保護者からも声が聞こえてくる。前期選抜の定員をすべての入試で増加させてほしい。【保】 ○ 学力に関係なく誰もが高校に進学できるよう、面接だけの選抜にしてほしい。【中】 ○ 最近は早く進路を決定したい傾向にあり、前期選抜不合格者は私立高校を選択する。前期選抜の募集定員を増やすなど制度見直しが必要である。【他】 ○ 京都市や私学ともしっかりと協議して、京都府の子どもたちをどのように育てていくかという視点でスピード感を持って進めてほしい。【他】 ○ 入学者選抜制度は、中学生、保護者にわかりやすいシステムであることが大事である。【他】	
その他	
○ 校則は生徒の大きなニーズの一つで、各学校の生徒にアンケートを行ってほしい。【高】 ○ このような人物になるためにこの学校に来てほしいなど具体的で強いメッセージを発信することが魅力の強化に繋がると思う。【保】	